

病院の 実力

～神奈川編 170

乳がん

今回は、女性がかかるがんの中で最も多い乳がんを取り上げる。一覧表には、各手術実績のほか、妊娠の機能を残す治療の実施状況を掲載した。

早期発見へ自分でも検診

手術は、乳房をすべて切除する全摘手術と、がんとその周囲のみ摘出し、残した乳房に放射線を照射する温存療法がある。

手術は、乳房をすべて切除する全摘手術と、がんとその周囲のみ摘出し、残した乳房に放射線を照射する温存療法がある。

その特徴をよく聞き、どちらの方法を選ぶか、いつ受けるかを決めることが重要だ。がんのタイプや進行度によって、再発予防などの目的で薬物療法を行う。抗がん剤は、卵巣にダメージを与え、治療後も月経が戻らないケースもある。そこで、将来、子どもを望む患者を対象に、妊

失った乳房は、手術で再建できる。患者のおなかや背中の筋肉や脂肪など「自家組織」か、シリコン製の人工乳房を使う。形成外科医からそれ

ぞれの特徴をよく聞き、どちらの方法を選ぶか、いつ受けるかを決めることが重要だ。がんのタイプや進行度によって、再発予防などの目的で薬物療法を行う。抗がん剤は、卵巣にダメージを与え、治療後も月経が戻らないケースもある。そこで、将来、子どもを望む患者を対象に、妊

娠の機能「妊孕性」を残す治療が普及しつつある。薬を使う前に、卵子や卵巣組織を採取して凍結保存する。がん治療を受ける医療機関で対応していない場合、不妊治療クリニックなどを紹介してもらえらるかどうかが、早めに主治医に相談しよう。

乳がんの原因はよく分かっているが、初潮が早く閉経が遅いなど、エストロゲン(女性ホルモン)の多い状態が長く続くこと、肥満

乳がんの原因はよく分かっているが、初潮が早く閉経が遅いなど、エストロゲン(女性ホルモン)の多い状態が長く続くこと、肥満



聖マリアンナ医科大学
乳腺・内分泌外科
津川浩一郎 主任教授

タイプで治療方針見極め

治る可能性が高い。普段から、乳房の形やしこりの有無を確かめ、気になる症状があれば

乳腺外科を受診、40歳になったら2年に1回の検診を続けたい。

が陽性でHER2が陰性となる「ルミナルA・B」が、タイプの7割を占める。ほかの「トリプルネガティブ」やHER2が陽性のタイプは、増殖が早く転移しやすいが、薬が効くものも多い。年代ではなく、タイプによって進行速度が変わる。

手術だけでは2割弱が再発するとされる。一部の早期がんを除き、放射線や抗がん剤、ホルモン療法などを組み合わせ、再発を防ぐ。

病院の実力「乳がん」

医療機関別2021年
治療実績(読売新聞調べ)

医療機関名	手術 (件)	うち全摘 (件)	再建手術		妊娠の機能を残す治療の実施状況(22年4月時点)
			自家組織 (件)	人工乳房 (件)	
聖マリアンナ医大	783	380	60	30	○
県立がんセ	406	294	0	40	
東海大	349	221	15	11	
北里大	323	209	4	29	
湘南記念	285	210	0	6	
昭和大藤が丘	266	89	8	10	
横浜市大市民総合医療セ	237	162	18	14	○
横浜市立みなと赤十字	232	133	9	14	
横浜南共済	227	64	0	7	
済生会横浜市東部	219	83	0	10	
横須賀共済	203	93	2	6	
大船中央	185	69	17	10	
けいゆう	179	71	0	7	
横浜市大病院	155	92	15	6	
川崎幸	143	63	7	4	
日本医大武蔵小杉	139	50	3	18	
大和市長	127	96	1	2	
湘南鎌倉総合	118	67	4	9	
平塚共済	111	51	0	0	
平塚市民	106	26	0	0	
JCHO相模野	104	38	0	0	
山近記念総合	98	35	6	0	○
済生会横浜市南部	88	45	0	4	
川崎市立井田	86	8	0	9	
海老名総合	83	53	1	9	—
国・相模原	74	22	0	0	
市立川崎	66	56	0	0	
横浜新緑総合	62	19	0	0	
川崎市立多摩	55	24	0	0	
戸塚共立第2	55	25	0	0	
新百合ヶ丘総合	46	15	0	1	○
昭和大横浜市北部	42	8	0	0	
藤沢湘南台	32	12	0	0	
厚木市長	26	16	0	0	
聖マリアンナ医大横浜市西部	26	18	0	0	
小田原市長	15	0	0	0	
横須賀市長	10	3	0	0	

「国・」は国立病院機構、「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター。「—」は無回答または不明

全国の調査結果は20日の「安心」の設計面に掲載しました。

乳がんの原因はよく分かっているが、初潮が早く閉経が遅いなど、エストロゲン(女性ホルモン)の多い状態が長く続くこと、肥満

乳がんの原因はよく分かっているが、初潮が早く閉経が遅いなど、エストロゲン(女性ホルモン)の多い状態が長く続くこと、肥満

高年齢者も安全に治療できるようにと循環器内科、乳房切除後の再建にも形成外科とそれぞれ連携している。